

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 28 日

スタッフ 16 名

事業所名

児童発達支援センターはぐはぐ子ども村

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	16		所在地を移転したことによって定員が増えたので、活動の部屋を増やし少人数での落ち着いた活動ができている。	現状を維持していく。
	2 職員の配置数は適切である	15	1	基準以上の人員を確保し、一人ひとりに丁寧な支援ができるようにしている。	基準より多く配置し、職員が協力して療育に当たっている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	16		・活動によって、部屋割りをし、3つのクラスがスムーズに流れるようにしている ・写真や絵カードを使った色分けをするなどしておもちゃなどを片づける場所や次の活動がわかるようにし、自分で行動できるようにしている。 ・活動に集中しやすいように不要なものはおかないようにしている。 ・子ども用のトイレや洗面台がないため、補助便座やおまる踏み台などを活用し、子どもたちの目線に立って動線の見直しを行っている。	常に創意工夫し、個に応じた配慮ができるように日常的に点検を行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16		・感染症対策を徹底しており、療育前後、掃除、消毒を行っている。 ・常に換気をしている。 ・活動に合わせて部屋が分かれ、部屋を区切るなどして子どもたちが落ち着けるように環境を整えている。 ・清潔かつ危険がないように日々、朝のうちに再度点検し、整備している ・ケガをしないように壊れたおもちゃは都度修理している。	現状を維持していく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	16		・朝礼やケース会議でもより深く職員間で意見を出し合えるようになった ・療育の前後に職員間で日々検討している。 ・日々の記録紙記入時に振り返りを行っている。 ・目標見直し時には意見交換を行い、目標を設定したら皆で目を通して確認を行っている。 ・業務を勤務時間内に終えることができるように意識している。	積極的な話し合いができている。職員が意見を言いやすい環境を維持していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16		・意見や要望があった場合、朝礼や会議等で検討・周知している ・電話相談や保護者からの意見要望を職員間で共通認識している ・評価表を配布し、要望の把握や職員間で共通認識している。 ・電話相談についても、朝礼時間を中心に共通認識している ・年に1回、全保護者に向けて評価表を配布している	評価表の意見や保護者の要望などの情報を職員で共有し、改善に努めている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16		・ホームページで公開している ・回収した評価をとりまとめ、改善できるように、心がけている。	現状を維持していく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	16		第三者評価をしていないが、保護者評価アンケートを行い、直接利用しているご家族からご意見を聞いている。	今後検討していきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16		・交代で外部の研修に参加するようにし、研修を受けた指導員が全職員に伝達する時間をとっている ・月1回ケース会議を開催し、その中で内部研修を行っている(対応の仕方など情報を共有している。)	一人でも多く研修に参加する機会を設け、研修内容は全職員で共有していきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16		初回は保護者とじっくり話を聞き、ニーズや課題を把握している。お子さんについては体験で活動に参加してもらい、児童発達支援管理責任者が観察を行っている。日々、療育の中でアセスメントやモニタリングを行い、療育後は直接支援した職員から聞き取りを行い、計画に役立てている。相談支援専門員とも連携し、ニーズの把握に努めている。	現状を維持していく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	3	・標準化されたアセスメントツールは使用していないが、観察、聞き取りにより理解に努めている。 ・事業所独自のアセスメントツールを使用。 ・専門職による評価・意見を取り入れている。 ・保護者から聞き取りは丁寧、密に行っている	適正に実施している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	16		・具体的にわかりやすく内容を示し、家庭と事業所が連携できるようにしている。	ガイドラインに沿った支援計画の内容を確認し、療育に生かしていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	16		・毎日の記録、個別支援計画を必ず目を通してから療育に入っている。 ・療育後は、振り返りを行い、情報を共有している。	全員で計画を確認しながら療育を行っていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	16		・職員をグループ分けし、日々の活動を話し合っている。 ・制作、サーキット、季節のイベント等、各チームで話し合いをし立案している ・療士のカンファレンスで各分野の意見も取り入れている。	連携しながら活動していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16		・合奏曲や制作など定期的に変更している。 ・園外活動や季節のイベントなどを取り入れて行っている ・サーキット活動は担当が話し合い、3か月に1回内容を変更し、毎月、見直しを行い個別に対応できるように柔軟性をもってプログラムしている。 ・職員間で情報を共有し、各療士とのカンファレンスを行い、工夫している。	活動がマンネリ化しないように、定期的に見直しを行い、子どもの成長に合わせて更新していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	16		・支援の方法を個別と集団の観点から構成している ・日々の観察を記録し、状況を把握したうえで、個別に課題を把握し、個に応じた対応ができるように計画に柔軟性を持たせている。	現状を維持していく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	16		・朝礼で子どもの様子や今日の流れなど情報を共有し、療育準備、進行、役割などクラス単位で確認し打ち合わせをしている。 ・毎朝、その日利用の子の支援計画に目を通している。	休んでいた職員に伝わっていないことがあったため、問題提起する機会を設けお互いに確認しあえる関係を築くように心がけている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	16		・同じ時間、同じ場所で記録を行い、クラスに関係なくお互いに振り返りを行うようにしている ・各自見逃している点もあるので、尋ねたり、気付いた点を報告し合っている ・各クラスの職員間で目標到達の報告や課題の確認をしている	現状を維持していく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	16		・毎日記録を行い、児発管が目を通し検証改善に努めている。 ・個人に対する記録は日ごとに担当を変え、複数の支援員の目で記録を取るようにしている。	現状を維持していく。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	16		・必要時、その都度、業務の合間を利用し、職員がそろう時間にモニタリングを行い、話し合っている。 ・月1回ケース会議を開き、事例の検討を行っている。	現状を維持していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	16		・施設長や児発管が参加している。	現状を維持していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	16		・適宜、連携している。 ・保育園や関係機関の方が見学されることもあった。	常に関係機関と連携していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/	・該当なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/	・該当なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16		・保育所等訪問支援や担当者会議にて行っている。 ・送迎時を利用して情報の共有を行っている。	積極的に関わりを持つようになっている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16		要望がある場合は情報提供している。	・担当者会議等で連携していく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	16		・法人代表が公認心理師として、地域の保育園等に講義を行い、職員にも実施している。 ・法人内に支援事業所があり連携している。 ・理学療法士や言語聴覚士の支援とカンファレンスを受けている ・外部研修に職員が参加し、施設内で周知している	現状を維持していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	14	2	・コロナ禍でイベントは開催できなかったが、子どもたちは併行通園で利用しているため、交流はある。	今後コロナ禍でもできるイベントを計画していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	5	案内があれば参加したい。	案内があれば参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	16		・電話やメール、個別の見学、支援計画の見直しの際などを利用して共通理解できるように努めている。 ・必要に応じて、連絡をとり共有している。 ・母子通園(参加・懇談)がコロナ禍で実施できなかったが、個別の見学を行い、情報を伝えている	共通理解を更にせ進める手段や方法を工夫していきたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	15	1	・相談に応じて実施しているが定期的な企画をあんなにしている。	利用しやすいプログラム実施を検討していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	16		・契約時に行っている ・常に見ることができるように掲示している。	現状を維持していく。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	16		・わかりやすい表記と説明を行い同意を得ている。	現状を維持していく。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	16		・メールや電話等を通じて相談を受けつけ、必要に応じて支援を行い、専門機関との面談も設定している。	相談しやすい関係性を築くようにする。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	14	・母子通園で懇談会を開催してきたが、コロナ禍でできない状況である。 ・年長児対象で就学についての会を実施している。 ・イベントを通じて交流の場を作ってきたが、コロナ禍で開催できていない。	状況を見ながら開催できるように今後検討していく。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	16		・見学や契約の際に、相談、援助を行うことを説明し、申し入れがあった時は迅速に対応できるようにしている ・毎月のお便りに相談受付の案内を必ず記載している。。	今後も迅速に対応できるように努めていく。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	16		・月1回お便りを発行、年1回ニュースレターを発行している。 ・写真を入れて、活動内容をわかりやすく伝えている。	ホームページの更新を含め、積極的に情報発信していく。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	16		・シュレッダーの活用や持ち出し禁止をしている	現状を維持していく。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16		・個に応じて対応している ・子どもについては、ジェスチャーや絵、図などを用い視覚的援助をしたり理解しやすい言葉がけを行っている。	わかりやすい情報伝達に努めていく。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	12	・年に1回、子どもまつりに地域の人を招待するが、コロナ禍で実施できていない。	コロナ状況を見ながら実施を検討していく。
	非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	16		・マニュアルを作成し、職員・保護者へ周知を行い、定期的に訓練をしている。
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		16		・月1回子どもたちと職員を対象として避難訓練を実施している。 ・内容は地震・火災・風水害について月に1回ごとに計画書を作成して実施している。 ・年1回、消防署への通報訓練や職員を対象としたAEDや心肺蘇生法についての訓練を実施している。	・訓練後は、反省会を開き、より安全に避難できるように努めていく。 ・職員に対して非告知型の避難訓練を実施したい。
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		15	1	・契約やアセスメント時に聞き取りを行い把握に努めている。	定期的な確認と周知を図っていく。
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている		15	1	・保護者から申告に基づいて行っている ・契約時の確認を行っている。年長児についてはおやつを提供しているので、事前に、アレルギー確認を行い、常に確認できるように、アレルギー表を壁に貼って共有している。	定期的な確認と周知を図っていく。
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		16		・事例が発生したときは、話し合い共有し、ヒヤリハット報告書を書くようにしている。ファイリングした報告書は、職員がいつでも確認できるようにしている。	他事業所の事例も収集して職員間で共有していく。
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		16		・研修に参加した職員が報告し、共通理解している。 ・毎日の記録にも身体拘束の有無など記載し、心がけ、虐待防止委員会で検討するようにしている。	全員が研修に参加できるようにしていく。
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		16		・個別支援計画に記載し、説明後、保護者に同意を得てサインを頂いている ・毎日の記録紙に身体拘束の有無を記載し、かつ疑わしき行為は施設長へ報告するようにしている。	丁寧に説明を行い、保護者の理解を得ていく。